

ずいひつ No.129

2017年11月25日発行

書店の裏側その4 図書と手荒れとダンボール編

寒い季節が近づいてきました。この季節になると思い出すのは、書店員時代は手荒れがひどくてハンドクリームが手放せなかったなということです。今回は書店員時代の手荒れのお話を一日の流れとともに送ります。

おはようございます！

書店員の一日はお店に届いた大量の新刊や文庫などの入ったダンボールや雑誌の束をさばくことから始まります。運送会社さんがバックヤードの薄暗いところに届けてくれるダンボールはキンキンに冷えています。軍手をはめた手でダンボールを開け作業を始めますが、やはり軍手をはめたままではやりにくい、結果途中で軍手を外して作業をすることもしばしば。そして奪われてゆく手の油分…さあ忙しい一日の始まりです。

今日も寒いですね！

いよいよ開店です。そしてこの時期はハロウィン・クリスマス・お正月といった繁忙期も重なり、「プレゼントに本を」という方が増えてくる頃です。ラッピングの需要も当然増えるわけで慌てて数をこなそうとすると、指先を紙でピッと切ってしまうということが多々ありました。でも時間がないからとりあえずセロテープを絆創膏代わりに巻いて、もちろん大事な商品に血をつけないように細心の注意を払ってその場をしのいでいました。はずみでセロテープのカッターの部分に指先をぶつけて流血…なんてこともありました。

おやすみなさい。

ようやく帰宅し食事を取り入浴後に指先のケアの始まりです。傷に薬を塗りたくり、指にそれぞれ2枚ずつ絆創膏を貼り、さらに保湿用のクリームを塗り、寝るとき用の手袋をはめ、ようやく就寝…という日々を送っていました。それでも冬の乾燥には勝てず、カサカサから逃れるには季節が過ぎるのを待つしかないというのがあのころの“普通”でした。

そしてまた朝がきます。

お疲れ様でした！

日中の忙しさにかまけて手のことはいつのまにかおざなりになり、電車に揺られながらふと自分の手元を見ると自分の手の荒れ具合と乾燥具合に愕然とする…ということがよくありました。指の関節の部分は乾燥でひび・あかぎれになり、曲げるだけで痛い。おまけにかゆい。指と指の間の水かきの部分は乾燥で皮膚が白くなり、皮がめくれ、よく見れば爪の色もなんかおかしい…え？血通っているよね？と疑いたくなるような色をしている！ささくれも増えているし！なんてこともありました。

そんな時代もあったねといつか話せる日が来るさ

これはあくまで肌の弱い私個人の話です。全国の書店員さんが皆、必ずしもこうであると言うわけではもちろんありません。おかげさまで今の私の手は潤った状態をキープしているのでご心配なく。

身体は正直です。最近がんばりすぎたな、疲れているなと思ったときはゆっくり体を休めてくださいね。

自分じゃ手に負えないときはお医者さんに相談しましょう。

(犬より猫派司書)